

東彼杵 グラフ

3 / 23 郷 木場郷

広域農道沿いにある木で作られた木場郷のランドマーク。
その周辺を訪ねると、田植えと何か楽しいことが始まろうとしていた。
江戸時代からこんこんと湧き出る名水はうまい米を作りだし、
住民に豊かな発想と元気も与えている。





自動販売機で休憩をしている時に、“木場”のオブジェは南清水組とよばれる有志により作製されたものと住民に教えてもらう。その中心人物のひとり、肥育牛農家の川添邦茂さんを訪ねてみることにした。

途中、軒先でラッキョウの出荷準備中のみなさんと目と目が合ったので寄り道する。忙しい中でも丁寧に道案内をしてくれた。その先の道が二股に分かれていたので助かった。のびのびと草を食む牛に出会う。あまり近づかずチラッと見る程度にして先を急ぐ。柑橘系の果実の木や竹林の道をくねくね進むと、牛舎が見えてきた。

「もう6～7年になるかな。2回塗り替えしとる。天満宮のお宮の木をいただいた」と川添さん。“木場”のオブジェは、地域の氏神さまである天満宮を改築する際に伐採した檜や杉の木を活用したそうだ。だから、天満宮の方に向けて立てられている。

「あのオブジェはまだ終わりじゃなかよ。また今度来てみな」と少年のような顔でにやり。川添さんの後ろでは、小さな窓からつぶらな瞳の幼い牛が順番に顔を出してきてかわいかった。

(写真右上) 手間がかかるラッキョウの皮をむく作業中に、楽しいお話と道案内をしてくれた

(写真下) ミツバチに付いて行くとニンジンの花畑があった。可憐な花が集まって丸く咲く





地域おこし協力隊の私たちには、各郷の所在地はまだぼんやりしているが、木場郷だけはすぐに頭の中でイメージできた。広域農道“大村湾グリーンロード”沿い、木のオブジェがあるあたりだろうと。地図をあまり確認せずに現地まで行けたのは木場郷が初めてだ。

いつも車窓から眺めていた“木場”を間近で見ると、横に頭を垂れた稲穂のオブジェがあることに気づく。これも木で作られていて、クオリティが高い。オブジェがある交差点をぐるっと見渡せば、私たちにも見慣れてきた茶畑はなく、田園風景が広がっていた。

公民館周辺の田んぼは耕されて、じわじわと水がしみ出している。水張りを終えて、いつでもスタンバイOKという田んぼにはイモリがいきいきとしていた。

「ここの米は湧水を使っているのでおいしかですよ。町内外の人に喜ばれております」と麦わら帽子がよく似合う中島俊雄さん。学校に通う頃から田植えの手伝いをしているというベテランは、毎年地域の先陣を切って水入れを始めている。

木場郷の住民には古くから“宝の水”として大切にしている出口山の湧水がある。慶長18(1613)年、江ノ串鉄砲組の配置により、出口山水源地から灌漑用水路を整備し水田が開発された。鉄砲組以外の武士も開発に携わり、当時の千綿村の中で木場郷の水田面積が最大であったという。1日14000トンも湧き出るといわれる清涼な水は、今も水田など農業用水はもちろん生活のための水として十分に使用。住民は先祖が残してくれた恵みに感謝して、山を清める神事を江戸時代から欠かすことなく毎年1月16日に行っている。

(写真左上)「楽しみにしてくれる人がおるから、おかしなもんば作れんですよ」と中島俊雄さん

再びオブジェを見に行くと、すごいことになっていた。“木場”の横に…“木”ができていた…。“木場木”??

“木”じゃなか。続きがある。“米”じゃよ（笑）」と区長の寺井辰之助さん。なるほど、上にチョンチョンを足して“木場米”になる途中だった。「湧水を使った木場のうまか米をもっとPRせんばね」と寺井さん。

南清水組によるオブジェづくりは、児玉忠重さんを発起人にアイデアマンの川添邦茂さんが提案。この日は農作業の忙しい最中、大勢の有志が集まった。照りつく太陽のもと、「あがりば楽しみだから」と自分たちへのご褒美を想像してみんないい顔をしていた。みんなで汗をかいて、みんなでお酒を楽しんで結束を固める。そこで、いろいろな地域活動が生まれるのだろう。

「オブジェを作るだけでは終わらせず、こいを活かした取り組みをしていかんば」と児玉さんは次の展開を話す。収穫の秋にオブジェの周りに多くの人が集まり、新米をみんなで食べるようなイベントを開催したいという。米どころらしい発想にわくわくする。

木場郷ではほかにもユニークなかかしを展示する取り組みなどもあり、地域活動が元気いっぱい。作業中にも軽トラックやトラクターを停めて声をかける人、車から降りて見学する人もいて賑やかだった。私たちもみなさんからたくさんの元気をいただいた。オブジェの周りが黄金色に輝く頃、またここに来ようと思った。

(写真上) 川添邦茂さんの頭の中は地域を盛り上げるためのアイデアがいっぱいだった

(写真下) “米”づくりに精を出す南清水組のみなさん。抜群のチームワークで仕事も早い

※木場郷へは、町営バス「弘法大橋」または「木場」のバス停を利用



次回は里郷。お楽しみに！

制作 地域おこし協力隊

文 飯塚将次

写真 堀越一孝

編集・デザイン 小玉大介

